

地域コミュニティの現状と議論の方向性等について

(テーマ 1)

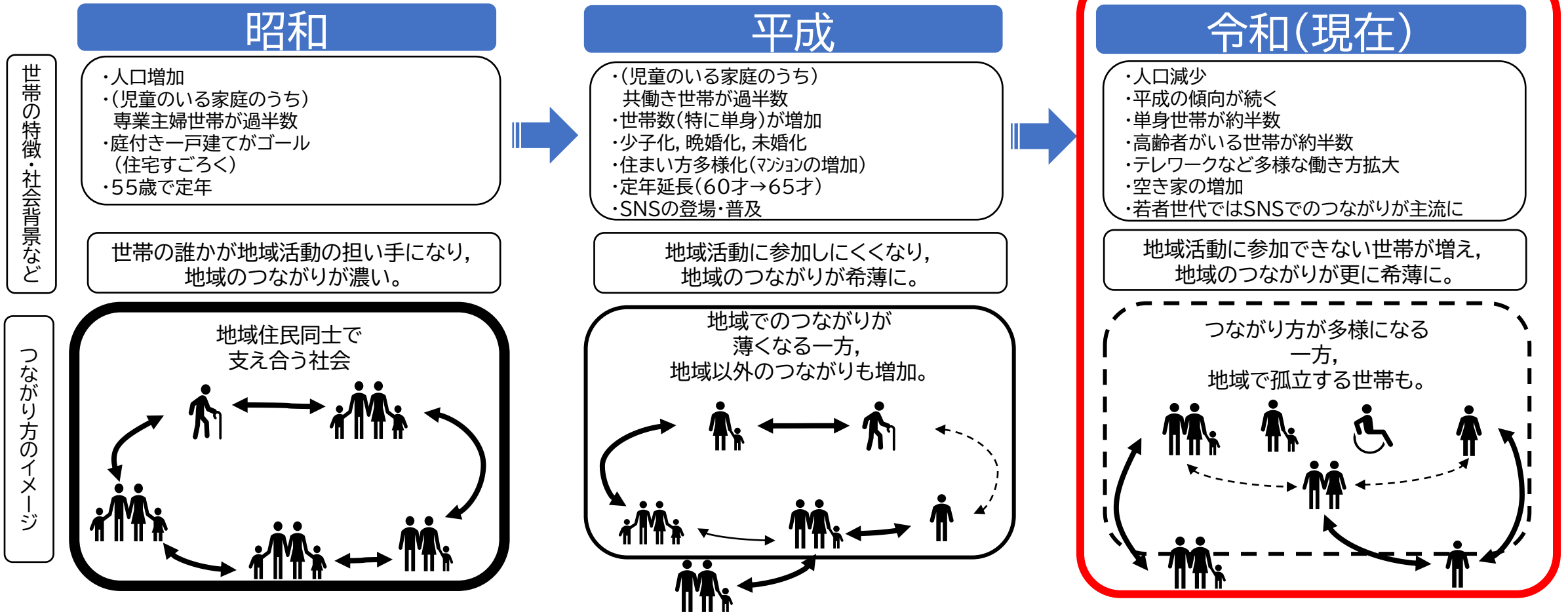
地域住民をはじめ、大学や地域企業など多様な主体が地域活動に参加しやすくなるきっかけや担い手を増やす仕組みづくり

令和 6 年 1 0 月 3 1 日

地域コミュニティ活性化推進審議会 第 1 回部会資料

地域コミュニティの現状と課題

地域コミュニティを取り巻く変化(概要)

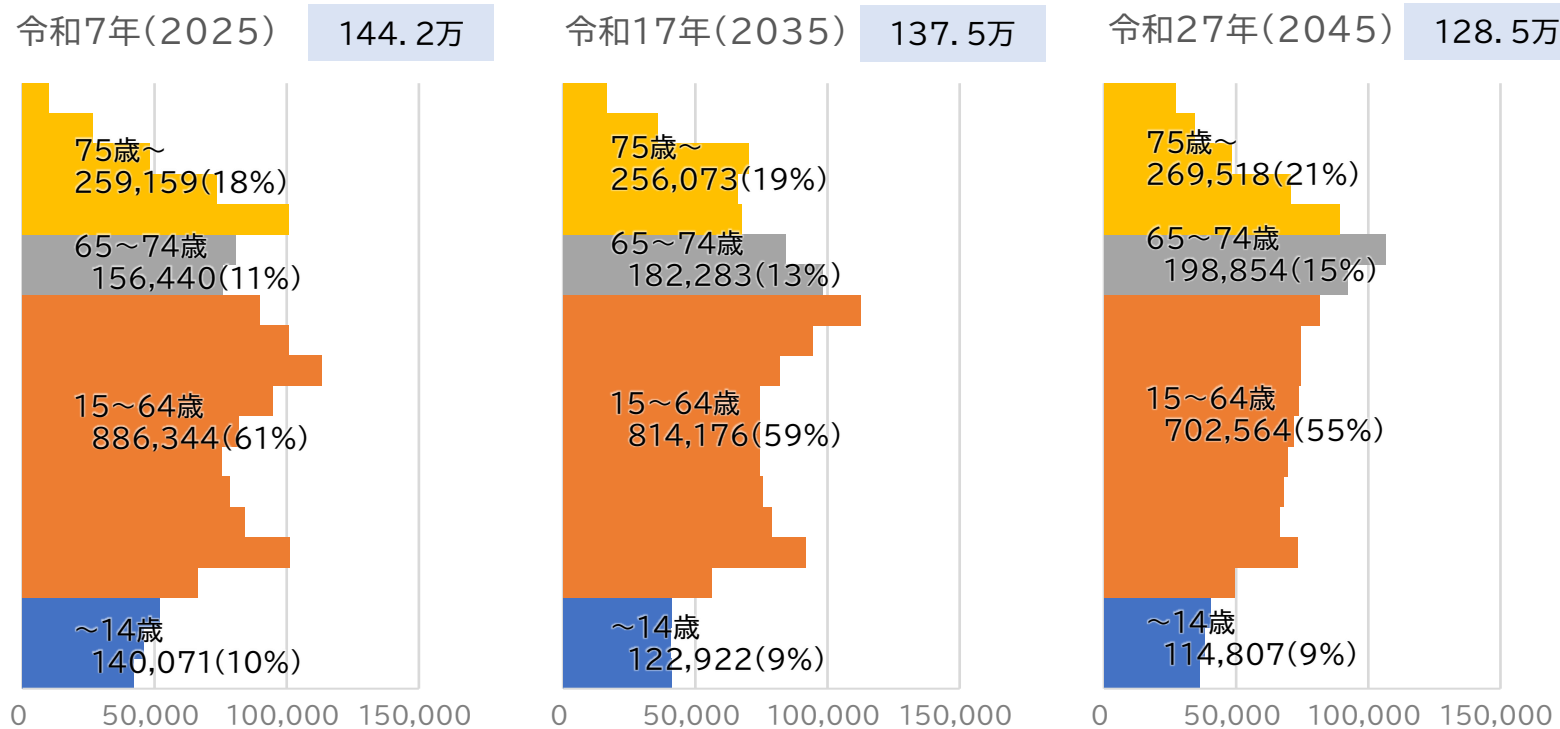


時代の変遷につれ、家族構成や世帯の特徴なども変化している。

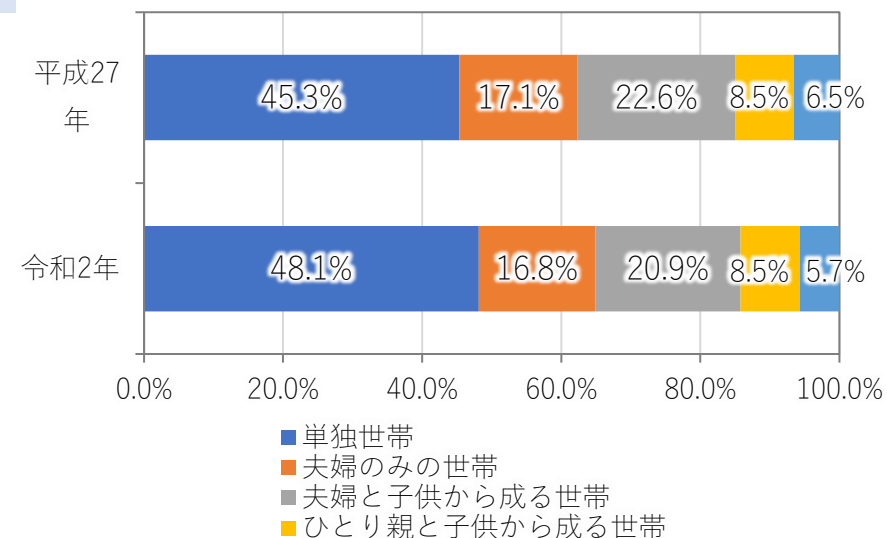
地域コミュニティの現状と課題

地域コミュニティを取り巻く社会環境の変化

京都市人口の推移



家族類型別世帯数の構成割合



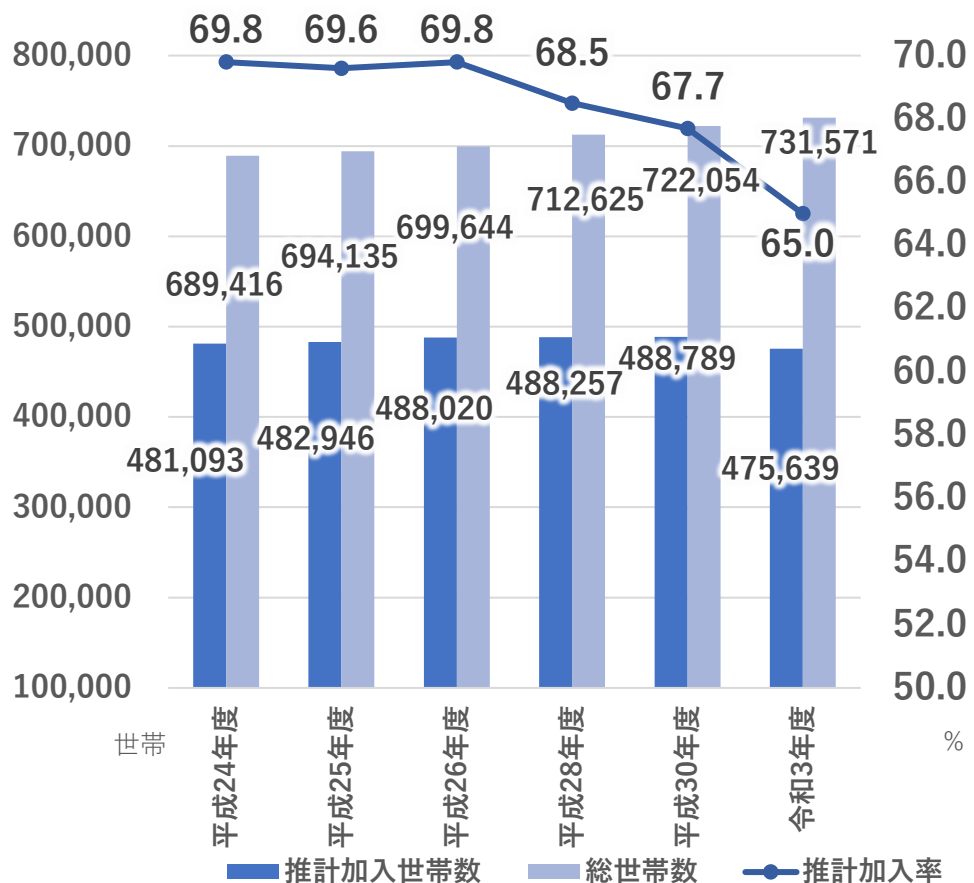
資料：総務省統計局「国勢調査（平成27、令和2年）」

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

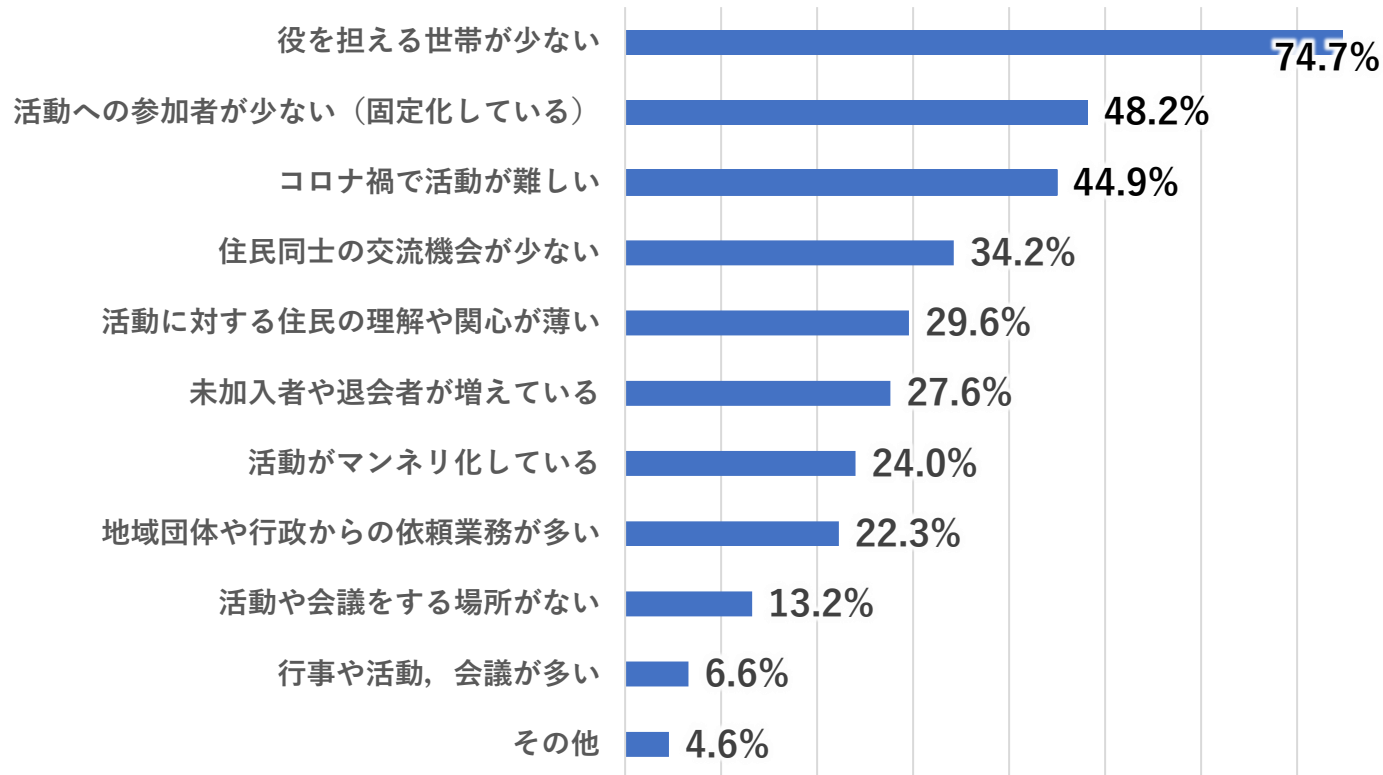
地域コミュニティの現状と課題

自治会・町内会の現状と課題

加入率と加入世帯数の推移



運営課題（複数回答）



資料：令和3年度自治会・町内会アンケート結果より

推進項目1 住民同士のつながりづくり

- ・ 住民同士のつながりづくりを支えるため、福祉や防災の視点など、京都市の各部局でも様々な視点で支援を実施。自治会・町内会をはじめとした地縁型コミュニティの支援に向けては、地域コミュニティサポートセンター等において、以下の項目を実施。
- ・ ICTツールを活用した新しいつながりづくりを支援。

地域コミュニティサポートセンターでの対応

●ケース1:自治会での担い手不足

 自治会の会長を引き受けてくれる人が年々減ってきている。会長職の負担も多く、なかなか引き受けてもらえない。

後任の方にも担いやすいように、適宜役員の仕事を見直すことが大切。まずは、役員内で何が負担かを話し合われたり、住民の方にアンケートで意見を伺うなど、住民皆ができるだけ納得するような検討を進められてはいいか。



●ケース2:自治会での活動について

 自治会メンバーの高齢化や、役員の固定化などで、活動が停滞している。今後自治会活動が続けられるよう、他の地域の事例を参考にしたい。

ある地域では集会所を活用し、自治会主催のカフェを開催しており、一人暮らしの高齢者の見守りにつながっている。また、関心度の高い「防災」視点から、避難訓練を行った後に備品の試食会を行い、交流の場を設けるなどしている地域もある。



取組事例の紹介

- ・ 地域活動のヒントになる情報の発信
～「新しい地域活動スタイル」事例集～



- ・ おうえんポータルサイトにて事例紹介

京都市
自治会・町内会&NPO
おうえんポータルサイト



- ・ 自治会・町内会アンケート結果パンフレット内にて事例紹介



- ・ 「困ったときのヒント集」を作成し、町内会長へ配布



ICT化支援

- ・ スマホ入門・活用講座
⇒ソフトバンク株式会社と連携協定
地域団体等を対象に、無料出張スマホ講座を開催

	実施件数	参加人数
令和3年度 (令和3年8月～)	62件	874名
令和4年度	87件	1,178名
令和5年度	67件	934名
令和6年度 (4月～7月)	22件	314名

- ・ ICTツール導入支援
⇒ICT運用マニュアルの公開
地域団体における導入マニュアルを京都市情報館上で公開
⇒ICTツール導入への助成



推進項目2 地域活動への住民の参加促進

・自治会・町内会への加入促進や各種啓発の取組や地域の自主的な活動を支援する助成金等を運用。

転入者地域交流支援制度

マンションの新築や戸建て住宅の宅地開発により転入される方が、地域コミュニティに円滑に参加できるように、あらかじめ地域と事業者が転入者の自治会加入等に関して協議することを支援する制度。

内容:

事業者は、建築確認、開発許可申請前に、地域(事前に届け出のあった地域の窓口)と連絡調整(交流促進のための協議)を行い、京都市(地域自治推進室)へ報告。

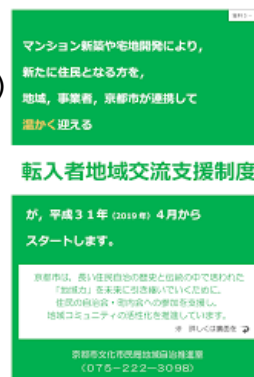
対象:

- ①特定共同住宅(3階建てかつ15戸以上の共同住宅)の新築
- ②1,000㎡以上の戸建て住宅の宅地開発(開発許可を要するもの)

制度の流れ:

- ①事業者と京都市とで、連絡調整の進め方など事前協議
- ②地域と事業者とで連絡調整
- ③事業者が京都市へ状況を報告(報告書の提出)
- ④連絡調整事項の実施

※地域と事業者が協力して、転入者への地域活動情報の提供、自治会・町内会への加入案内等を行う。



地域コミュニティ活性化に向けた地域活動支援制度

地域自治を担う住民組織や自治会・町内会などが実施する情報発信事業や交流・協働事業、運勢活性化事業などの自治会・町内会の加入促進につながる活動に対して助成する制度。

活用事例①:町内会加入促進チラシの作成・配布

地域活動に参加していただけるように、町内会の意義や役割、年間行事の紹介や、会費の用途などを記載した加入促進チラシを作成し、未加入者に配布。

活用事例②:加入促進を目的とした地域交流イベントの開催

自治会の加入、未加入に関わらず、その地域に住む全世帯を対象としたイベントを実施し、つながりの大切さや啓発を行った。

助成金

推進項目5 市民活動団体等と地域団体との連携

・新たな行動や地域課題解決につながるよう、多様な主体間の連携・協働を支援。

地域の実情・資源に応じたコーディネート

- ・大学の学生団体が上京区役所へ「地蔵盆を手伝いたい」と相談。まちづくりアドバイザーがコーディネート役となり、担い手不足に困っていた2つの自治会にて地蔵盆の企画・準備から当日の運営まで参画。「紙芝居」や「ふごおろし」などでは、学生ならではの柔軟な工夫や知恵で、地蔵盆を盛り上げた。
- ・北区のある自治連合会から、町内会の加入促進について区役所へ相談があり、自治会・町内会支援に取り組みたい大学生(ゼミ)をコーディネート。
学区内の町内会長と大学生が参加するワークショップを設け、効果的な自治会加入の呼び掛け方や、自治会加入を促すチラシの内容について、活発な意見交換を行った。

まちづくり・お宝バンク(総合企画局)

京都をよりよく、より住みやすいまちにするために、まちづくりの取組提案を募集し、ホームページ「みんなでつくる京都」で公開。実現を後押しする知恵や力を募り、コーディネートすることで、実現をサポートする事業。

・お宝No.238:祇園祭を体感しながら地域に貢献できる「岩戸山ソーシャル寄町」(提案者:岩戸山ソーシャル寄町)

⇒岩戸山町の小規模劇場を拠点に演劇活動を展開する提案者と岩戸山保存会の連携

・お宝No.243:減災カフェ(提案者:チームKUSABI)

⇒パトロールランニング等を行う提案者と下京区菊浜学区の連携。



行政×大学×地域

・ 3L APARTMENT(都市計画局)

平成31年に京都市、龍谷大学、田中宮市営住宅自治会の三者で「公共空間利活用と周辺地域活性化に係る連携協定」を締結。大学生が田中宮市営住宅に入居し、暮らしながら自治会活動にも参加することで地域コミュニティの活性化に取り組んでいる。

・ 紫竹学区自治連合会と大谷大学との連携

北区民まちづくり提案支援事業として、紫竹学区自治連合会加入調査「町内会アンケート」を実施。分析の協力や地域イベントでのアンケート実施などに大谷大学の学生が協力。その後、大谷大学内において地域連携活動として「紫竹自治会応援プロジェクト」が発足。(⇒志藤委員がご担当)

←二次元コード:京都市「市政参加とまちづくり」応援ポータルサイト『みんなでつくる京都』

前期(令和4～5年)の審議会のまとめ

【好事例のポイント】

誰もが参加しやすい

- ・出入り自由
- ・誰もが居やすい
- ・参加へのハードルが低い
- ・継続で信頼が生まれる

多様な地域の特性に即した

- ・自分たちの目線で手作り感のある
- ・学生や外国籍など多様な人の受け入れ
- ・伝統をベースに、新たな知恵・技術の取り入れ

多様な主体の連携

- ・得意分野で関わる
- ・顔の見える場から関係性が生まれる
- ・多様な主体の介在が住みよい暮らしにつながる

今年度第1回審議会における意見(一部抜粋)

- 転入してきた有能な学生を地域からスカウトできていない。そもそも接点がない。(丹治委員)
- 学生が自治会に気軽に参加しやすいように、デジタル化が広がればよいのではないか。(行元委員)
- そもそも学生は自治会に加入できることを知らないのではないか。
学生も自治会に加入できることを広く発信するだけでも加入率は上がるように思う。(森本(陽)委員)
- 新しい地縁、例えば学生との縁をいかにつないでいくかが今後重要になってくるように思う。
かつて学生はお客さんだったが、今は学生の力も借りたくなってきている。(荒川委員)
- 学校の授業でタブレット等を使用し、情報に敏感に触れている子たちが育ち、地域に入ってくれば必ず力になってくれる。(森本(つ)委員)
- 今年の7月に開催した(勧修学区の)夏祭りには、京都橘大学から約140名の学生が参加した。
(中本委員)
- 普段関わりのない人達がチームになって参加しているという気持ちになれるよう取り組んでいる。
(橋本委員)
- 人にとって自分がやっていることの効果に対する認知は大事な問題だと思う。
単に「地域コミュニティは大事」と言うのではなく、活動にどのような価値があるのか、本当の意味で地域コミュニティが何を支えているかという効果を検証してそれを伝え、伸ばすために何が必要なのかを考えることが大事であるように思う。(玉村委員)

「参加しやすい」地域事例

共同住宅におけるコミュニティづくり

「花ともサークル」の開設～（中京区本能学区）

入居者から、誰が住んでいるのかわからない、もっと交流したいという声があり、季節ごとの花を植えて楽しむ「花ともサークル」を開設。約9年間も継続されています。マンションの玄関先2ヶ所と、昨年から新たに駐車場の一角の憩いの場にも花壇を設置し、月2回植物のお世話をされています。参加者は「メンバーが休んでいたら気になる」と話されており、高齢者の見守りに繋がっていると実感。基本的に高齢者が多いですが親子世帯も参加されています。入居時に、積極的に紹介し、参加者を増やされています。また、美化活動として、居住者や地域の方にも大変喜ばれているようです。



中京区社会福祉協議会の中京区地域支え合い活動創出コーディネーターが中心となり、共同住宅における高齢者の支え合い活動を広めるため、「中京区共同住宅支え合い活動推進ミーティング」を開設されています。今回の取組もこのミーティングを通じて、より魅力的な取組へと発展できるよう支援されています。



～西野山タウンミーティング～（山科区勸修学区）

住民の高齢化や空き室の増加といった課題に対して地域の力でどう対応するか、自治会の役員だけではなく、地域住民同士の交流と意見交換からボトムアップで考えていけるよう、タウンミーティングを実施し、多くの方々の声を集められるよう努力されています。第1回は「焼き芋タウンミーティング」と称し、集会所前で焼き芋を振る舞いました。100個以上の焼き芋がなくなる快挙で、大勢の地域住民の声を集めることができました。その中で、「買い物が不便だ」という声があがり、近隣企業に協力してもらって、週2回の移動拠点販売が始まりました。



通常の呼びかけではなかなか人が集まらないため、社会福祉協議会や区役所、まちづくりアドバイザーなど様々な機関と連携し、ミーティングが魅力的に感じられるよう工夫されています。今後も、地域の声を積極的に集めつつ、そこから見つかった課題を一つ一つ解決していく予定とのことです。



「参加しやすい」地域事例

北区でのコミュニティデザイン ～むらさきスタイルプロジェクト～

①新大宮広間の管理運営

オープン：2021.11.20

会員数：個人会員374名 / 団体会員95団体

スタッフ：8名（個人事業主、地域の大学生、主婦）

②ウォールデンマーケット開催@大宮交通公園

テーマ「森で遊び、森で学ぶ」持続可能な地域のつながりづくり
年に3回（春、夏、秋）に開催（2022年4月～）

出店数 約108店舗



むらさき
スタイル
プロジェクト

2024. 9
むらさきエリアカレンダー

● 随時掲載希望承ります
 ● 最新情報は各QRコードよりご確認ください
 ● 新大宮広間にチラシ配架しております
 ● お問い合わせは新大宮広間まで
 shinomiyahiroma@gmail.com

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 カフェ営業 9:00～16:00 絵手紙アート	4 何でもサロン 着付け教室	5 ちぎり絵制作	6 らくらく体操 フラワーアレンジメント 街仲食堂	7 子ども アトリエ教室 街仲食堂
8 こども食堂	9 乙書 たまりば幸座 整体体操教室	10 カフェ営業 9:00～16:00 ペーパー クイリング	11 むらさき キャンパス 着付け教室	12 カフェ営業	13 カフェ営業 街仲食堂	14 子ども アトリエ教室 歌声喫茶 カフェ営業
15 EXPO酒場 オープン パーク	16 カフェ営業	17 ラテン音楽 へのお誘い	18 カフェ営業 折り紙教室 着付け教室	19 HAPPY英会話 こころみカフェ ななまるカフェ	20 フラワー アレンジメント 寄席 北大路テラス ネットワーク 街仲食堂	21 待仲食堂 Fri 18:00～22:00 Sat 12:00～20:00
22	23 整体体操教室	24	25 着付け教室	26 カフェ営業 歌声喫茶	27 地域食堂 TAMARIBA (こども食堂) 街仲食堂	28 カフェ営業 街仲食堂
29 カフェ営業	30 スマイル教室			9/27(金) 18:00～20:00 よるきたサロン ※まごころサポート		紫竹まつり 9月14日

船岡山公園

大宮交通公園

新大宮広間

コミュニティ
カフェ新大宮

TAMARIBA

まごころ
サポート

HATCH京都

「参加しやすい」地域事例

みんなの学校ごっこin東山

まちづくりに携わる人を増やすきっかけにしようと、東山いきいき市民活動センターが企画・開催。

自分の好きなことや得意なこと、誰かに伝えたいことを、大人も子どもも関係なく教え、学び合う場。

好きなことを自分の中だけにとどめるのではなく、他の人に紹介することで、その価値を分かち合い、交流を深める場になっている。

(授業例：ダンス、ゲーム大会、書道、チャットGPT体験、LGBT教室等)

遊びも学びも全力で！
大人も子どももここに集まれ！

みんなの学校ごっこ

in 東山
2024

参加無料
(一部材料費あり)

2024 9/21(土)-22(日)

京都市東山いきいき市民活動センター

『みんなの学校ごっこ』とは、
「自分の好きなことや得意なこと」を
まちのみんながセンセイになって教え合う、
参加したみんなが主役になれる
2日限りの学校です！

事前申し込み
QRコード

授業例

- ・面白きたろろと星家路演劇
- ・TikTok プロデュース講座
- ・四季を感じる和菓子職人ワークショップ
- ・プレ&新ネママ・パパ集まれ！極上のベビーマッサージ教室
- ・子どもたち集まれ！美味しいコーヒーを淹れてみよう！
- ・商店街に図書館？！みんなの場所の作り方
- ・スマホで自撮り動画制作・導入入門
- ・段ボールで作るオリジナルビザ
- ・トランスジェンダーが教えるLGBT教室
- ・Let's Dancing！～流行りのTikTokメロデー 2024～
- ・ミュージックベルライブ＆みんなで演奏体験やってみよう！
- ・大きな筆のダイナミック書道！
- ・最シーンで振り廻る映画音楽家のしらべ
- ・ぬいぐるみ大集合！セフセフの海に飛び込もう！
- ・開眼×心理で読え！The ゲーム

時間割

開場(受付開始)	9:00～	4時 開場	14:15～15:15
朝の会	9:00～9:50	5時 開場	15:30～16:30
1時 開場	10:00～11:00	6時 開場	16:45～17:45 (2000名以上)
2時 開場	11:15～12:15	7時 開場	18:00～19:00 (2000名以上)
お昼休み	12:15～13:00	秋 講座後	19:30～20:30 (21時)
3時 開場	13:00～14:00		17:00～18:00 (21時)

朝の会 朝カフェーみんなで食べよう朝ごはん！～(材料費あり/持ち込み可)～
秋講座 まちの子どもたちによる脱出ゲームとカフェを計画中！

お問い合わせ：京都市東山いきいき市民活動センター
TEL: 075-541-5151 MAIL: higashiyama.kisei@machigoto.net
〒605-0018 京都市東山区東山近衛町442-1
月・水・土曜日/10時～21時 日曜日/10時～17時(休館日:火曜日・毎月第2日曜日)
・京都府立地下鉄「三条駅」徒歩7分 ・「東山駅」徒歩7分
・京阪「三条駅」徒歩1分 ※ご来場は公共交通機関をご利用ください。

主催 みんなの学校ごっこ実行委員会
(東山いきいき市民活動センター)

協賛 京都市 京都市東山区 京都市東山区民会 京都市東山区民会連合会
令和5年7月 京都市東山区民会連合会064450号

「参加しやすい」地域事例

防災・福祉まちあるき & 避難所運営ゲーム「HUG」(下京区菊浜学区)

菊浜学区では、菊浜まちづくり推進委員会を中心に「防災まちづくり」に取り組んでいる。推進委員会が地域住民とまちを歩きながら防災上の課題を確認するとともに、福祉関係機関の協力を受けながら、認知症や障害がある方への声かけ訓練や、菊浜のまちづくりにご協力いただける事業所などへの訪問を実施している。

また、避難所で起こる様々な出来事を模擬体験できる「避難所運営ゲーム」(HUG) も地域住民と実施しており、地域の方からは、「他の方と繋がる機会があってよかった」「日頃から顔の見える関係づくりの大切さを感じた」といった声も上がっている。



上京朝カフェ(上京区)

参加者が自由に話して交流できる場として、月に1回開催。それぞれが関わるイベントの告知やまちづくりのアイデア、暮らしの中での発想を話すなどしながら、意見や助言を交わしている。

上京区在住等の参加の条件はないため、他地域の方も参加しており、人と人がつながる場となっている。



「参加しやすい」地域事例

● 自治会同士の取組事例 (取組)きっずぱあくin地蔵盆体験

中京区では、各学区の民生児童委員や主任児童委員、社協との共催による子育てサロン（きっずぱあく）を開催しており、この一環で、普段からつながりのある4学区の民生児童委員が共催で地蔵盆体験イベントを全4回にわけて開催した。地蔵盆のない町内会やマンションにお住まいの親子、京都に転入されて間もない親子などが、各回約30名参加され、京都の文化に触れつつ、地域の方とつながるきっかけになっている。子ども遊びでは、学生グループ「edunka」の協力を得ており、幼児だけでなく小学生など幅広い年代の子どもたちが楽しめる企画となった。



● 地域×大学の取組事例 (取組)勸修おやじの会と橘大学

山科区勸修学区では、2009年におやじの会を立ち上げ、夏祭りを再興。京都橘大学の学生サークル「げんKids★応援隊」に参加を呼び掛けたところ、子どもとの交流をメインに活動している点を活かし、地域の方と一緒に企画から関わっている。始めはおやじの会が主だったが、今では運営のほとんどを学生に任せ、来場者約1000人規模の夏祭りに、毎年100名を超える学生が携わる。卒業した後も、顔を出してくれる学生も。



(出典) 地域の思い—学生と一緒に地域を盛り上げよう— | 大学・地域連携ポータルサイト GAKUMACHI STATION (がくまちステーション)

「参加しやすい」地域事例

- **地域×企業の実践事例**
(実践)地域のおしごと博物館

地域で育てて地域に生きる「地育地生（ちいくちしょう）」を提案し、子どもが興味のあることを早くから見つけられるよう、地域のお店で仕事体験を行い、体験型商業施設やイベント会場ではなく、自分の住む街にある実際のお店や会社を知り、くみを創っている。京都市主催「京都市地域企業未来力会議」から生まれた取り組みで、2020年度より市全域に開催を広げた。



(出典) 地域のおしごと博物館 京都 - 京都市で小学生を対象としたお仕事を体験する1日 (oshigotohakubutsukan.com)

- **地域×NPOの実践事例**
(実践)子ども食堂を起点にした居場所づくり

NPO法人のhappinessは、南区において子ども食堂を中心に、用事がなくとも顔を出したいと思える、ありのままの自分でいられる居場所づくりに取り組んでいる。「ハピネス子ども食堂」では、小学生からその保護者までを対象に、年間のべ約4,000人が参加し、大学生ボランティアが学習支援を行う「ハピネス学習会」なども開催している。活動は、たくさんのボランティアや地域の方、企業や他の団体と協力しながら実施しており、現在はカフェやシェルターにも活動の幅を広げている。



(出典) ハピネスこども食堂やhappiness*cafeで地域から孤立や貧困をなくしたい！ - みんなでつくる京都 (kyoto.lg.jp)

地域活動に関わる多様な主体の意向

大学や地域企業、NPOなど多様な主体が地域活動に関わるきっかけ等について調査を実施

- 大学生への調査

「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT等を通して、学生へのアンケート調査を実施。併せて、大学の地域活動を所管する部署(地域連携室等)と、学生の地域活動等の現状について個別にヒアリング。

100名が回答

- 地域企業への調査

京都中小企業家同友会の協力を得て、同友会加盟企業に対してアンケート調査を実施中。

85社が回答（10月24日時点）

- 市民活動団体・NPOへの調査

京都市内に拠点を置くNPO（法人格の有無を問わない）を対象に、アンケート調査を実施。

212団体が回答

地域活動に関わる大学・学生の意向

「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT等を通して、学生へのアンケート調査を実施(100名が回答)。併せて、大学の地域活動を所管する部署(地域連携室等)と、学生の地域活動等の現状について個別にヒアリング。

【学生の声】

<活動のきっかけ>

- ・ 入学時のオリエンテーションで、先輩から、ボランティアを教えてもらった。
- ・ 授業にゲストスピーカーとして来ていたNPO法人の方から、ボランティアを紹介された。

<活動に参加してよかったこと>

- ・ 地域活動を通じて身につけたスキルを他の活動でも活かせたときに、やりがいを感じた。
- ・ 地域の祭りに参加した際、地域の方が優しく声をかけてくれて、居心地がよかった。

<活動に参加する時に重視すること>

- ・ 地域の方に喜んでもらえることを大事にしている。
- ・ 地域・企業に限らず、普段接することのない人と接することで色々な価値観を知りたい。

<大学の友人に地域活動・ボランティア活動への参加を促すために有効な働きかけ>

- ・ 行政や企業から紹介されるよりも大学の先輩から教えてもらった方が参加しやすい。
- ・ 学部やゼミ等で広報する際、関連する分野に絞って活動の紹介をしたら効果的だと思う。

【大学の声】

- ・ 最近の学生は、自分の時間を使って何が得られるかで参加するかを判断する傾向がある。
- ・ 「まちづくり」や「地域活性化」について、興味を持つ学生は多いが、具体的な活動のイメージがしにくい様子。
- ・ 実際に活動している学生が、意義や楽しさを伝えると最も効果的。
- ・ 地域との連携には、地域内のキーパーソン(商店街に多い)との連携が必要。
- ・ 教員が手一杯の状況の中で、地域活動を単位化することが難しい。

【アンケート結果(一部抜粋)】

Q この1年間に参加した活動は?(48名中)

- ①子ども食堂や学習支援など子どもに関わる活動(47.9%)
- ②お祭りなどのイベント(37.5%)
- ③環境美化、保全などの活動(20.8%)
- ③学区や自治会などの活動(20.8%)

Q 活動に参加した動機は?(48名中)

- ①活動に興味があった(50%)
- ②自分の成長につながると思った(39.6%)
- ③活動分野に関する知識や経験を得たかった(29.2%)

Q 活動に参加していない理由は?(45名中)

- ①十分な情報がない(53.3%)
- ②時間的余裕がない(51.1%)
- ③一緒に参加できる仲間がいない(33.3%)

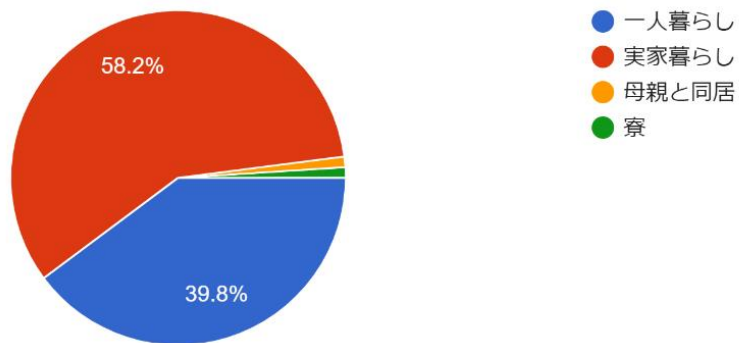
Q 活動に参加してよかったことはあるか

- ①ある(97.9%) ②ない(2.1%)

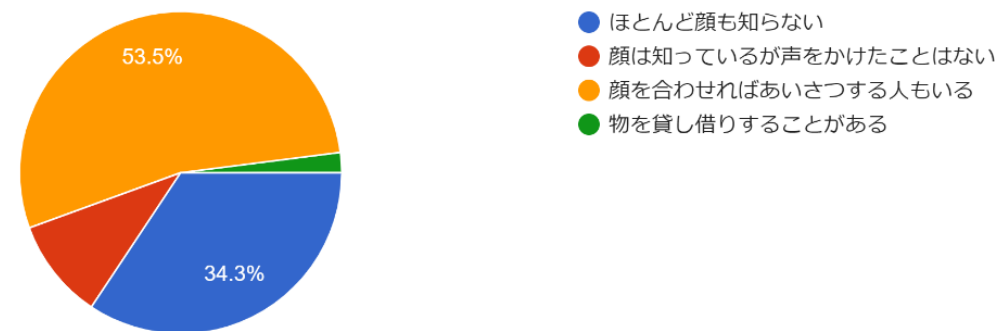
(参考)地域活動に関わる大学生の意向

<回答者の属性>

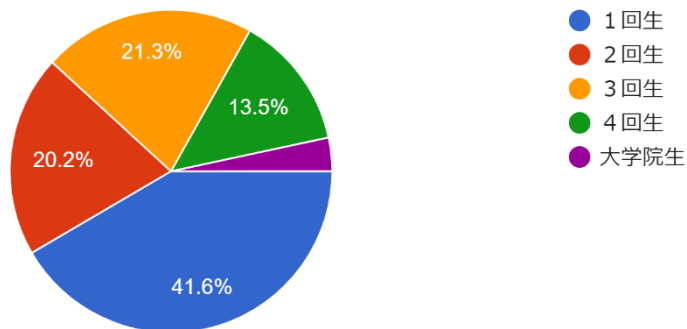
2. お住まいについて
98 件の回答



4. 普段、近所の方とお付き合いはありますか
99 件の回答



3. 現在、何回生ですか
89 件の回答

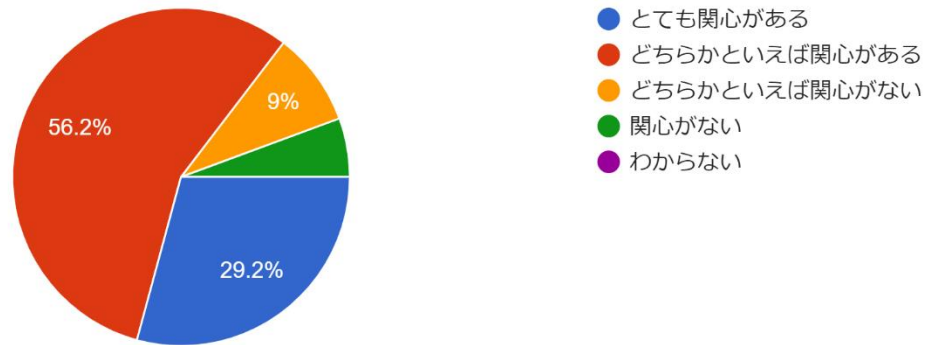


(参考)地域活動に関わる大学生の意向

<地域活動やボランティア活動への参加>

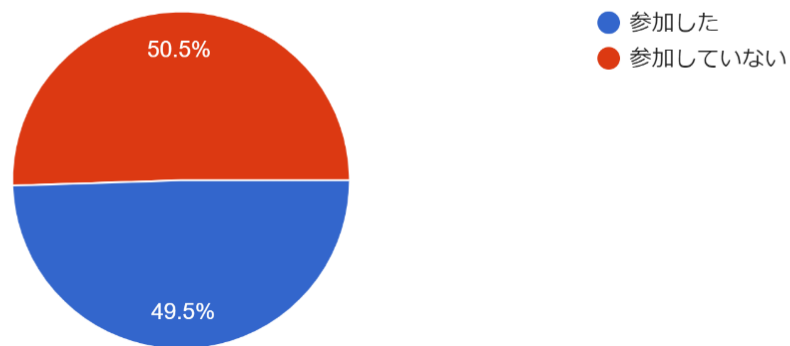
5. 地域活動やボランティア活動に関心がありますか

89 件の回答



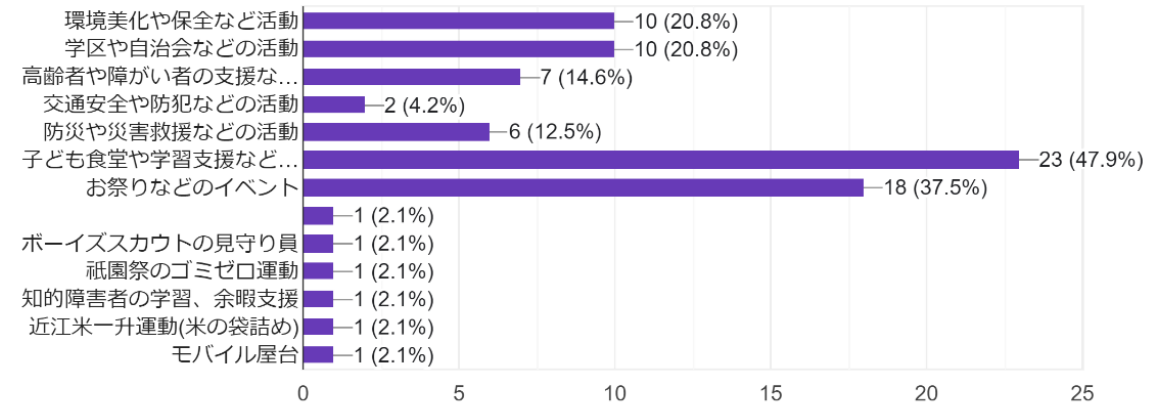
6. この1年間に地域活動やボランティア活動に参加しましたか

99 件の回答



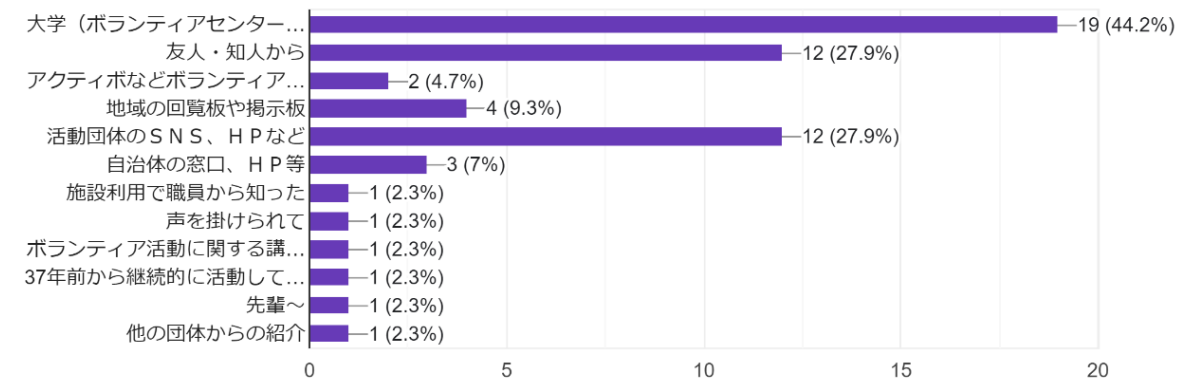
7. どのような活動に参加しましたか（複数回答可）

48 件の回答



8. 参加した活動の情報源は何ですか（複数回答可）

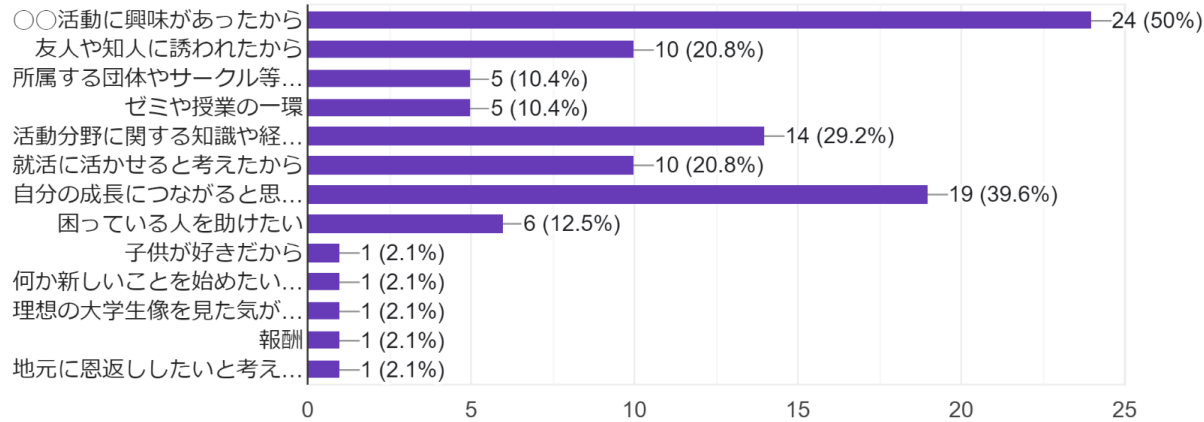
43 件の回答



(参考)地域活動に関わる大学生の意向

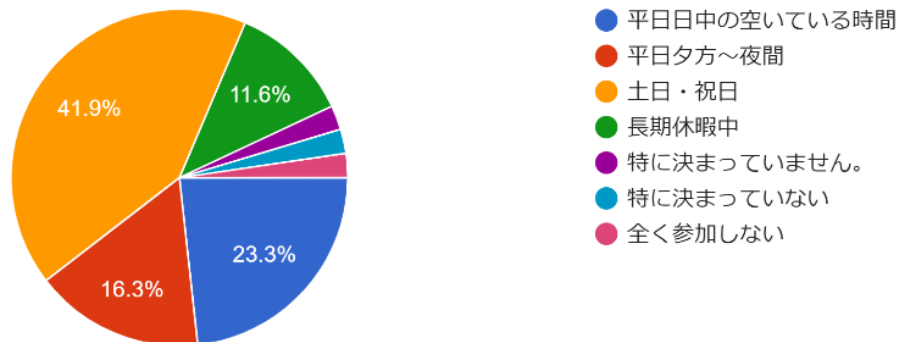
9. 活動に参加した動機は何ですか（複数回答上位3つまで）

48 件の回答



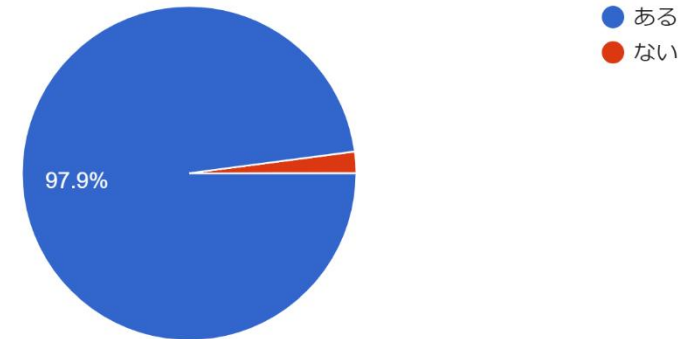
10. 地域活動やボランティア活動に参加するのは主にいつですか

43 件の回答



11. 地域活動やボランティア活動に参加してよかったことはありますか

48 件の回答



12. どのようなことが「よかった」ですか。

（自由記述）43件の回答から抜粋

- ・やりがいのある活動で勉強になることも多く、いろんな方に出会えた。
- ・地域の人や参加者同士の交流ができた。
- ・様々な大学の人たちとつながることができた。
- ・日々の活動で子どもたちの成長を直に感じた。
- ・話し合う力がついた。自分自身の成長を感じた。
- ・普段気に掛けない街の様子を知り、愛着がわいた。

(参考)地域活動に関わる大学生の意向

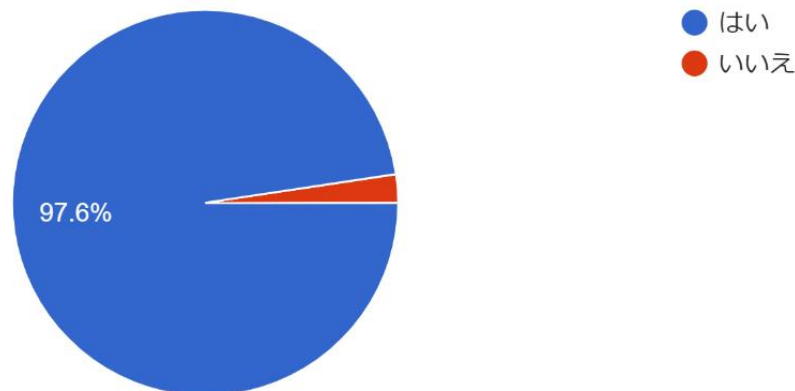
1 3. どのようなことが「よくなかった」ですか。

(自由記述) 1 件の回答

・ どのボランティアも、ただの無賃労働者としか考えていないような扱いをされた気がしたから

1 4. 今度も地域活動やボランティア活動に参加したいですか

42 件の回答



1 5. 活動に参加する際に、重視するのはどのようなことか

(自由記述) 3 5 件の回答

- ・ やりがいを感じられるか、自分の成長につながりそうか。
- ・ 楽しんでできるか。
- ・ 地域の人に喜んでもらえるか。世の中のためになるか。
- ・ 近場で行えるか。
- ・ スケジュールに合うか (テストやバイトと被らない)。

1 6. 地域活動やボランティア活動に参加したことがない大学生の友人に地域活動やボランティア活動への参加を促すために、どのような施策や働きかけが有効だと思うか。

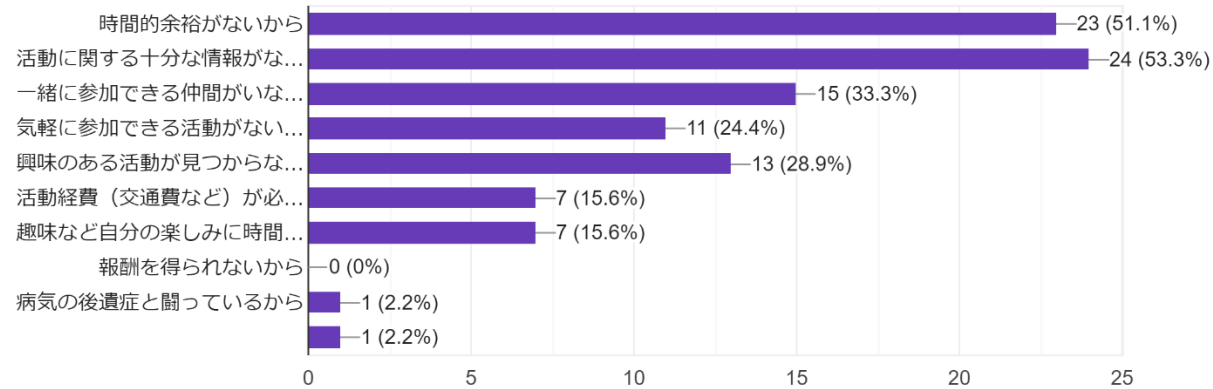
(自由記述) 3 2 件の回答

- ・ 自分の経験をシェアする。一緒に行ってみる。
- ・ 気軽に参加できるよう、体験会など初参加へのハードルを下げる。
- ・ 動画や写真など様子がわかるわかりやすい広報。
- ・ 大学事務局やサークル団体等へのアプローチ。
- ・ 良心や重要性を訴えるのではなく、楽しいことややりたくなる魅力の発信。

(参考)地域活動に関わる大学生の意向

17. 活動に参加していない理由は何ですか（複数回答・上位3つまで）

45 件の回答



(参考)地域活動に関する学生の声

活動のきっかけ

- ・ 入学時のオリエンテーションで、先輩から、京都、神戸を中心に子どもたちの自然体験事業を行っているボランティアを教えてもらい、4年間続けている。
- ・ 福祉関係の資格取得を目的に受講した講義で、ゲストスピーカーとして来ていたNPO法人からガイドヘルパーのボランティア(知的障害者のお出かけ支援)を紹介された。
- ・ 京都府警が実施しているボランティア募集のチラシが地下鉄に貼り出されており、公務員志望でもあったため応募した。

活動に参加してよかったこと

- ・ ふれあいまつりでの防犯に関する活動で得た地域の方への接し方のノウハウを、ボランティアでも活かしたときはやりがいを感じた。
- ・ ボランティアの研修で、メンバーと毎週安全管理や子どもとのコミュニケーション方法について話し合う機会があり、継続することで一体感を感じることができた。
- ・ 夏まつりのボランティアの際に、地域の方達が自分達で盛り上げようとする力を見ることができた。お店の方と地域の方が知り合いなので、アットホームな雰囲気だった。地域の方が、初対面なのに「休んでいいよ」「ありがとう」等優しく声をかけてくれて居心地がよかった。機会があればまた参加したい。
- ・ 地域の方と一緒に活動した際には、熱中症に気をつけるよう声をかけてくれる等、優しく接してくれ、普段接することがない人と関わることができて嬉しかった。
- ・ 街頭アンケートの際に、様々な世代の方とコミュニケーションが取れた。

(参考)地域活動に関する学生の声

活動に参加する時に重視すること

- ・ 地域の方に喜んでもらえることを大事にしている。商店街パトロールの際、「気をつけるね」「ありがとう」と言われた時はやりがいを感じた。
- ・ ボランティアは自分が楽しめるかどうか大きいように思う。地域の方とたくさんコミュニケーションを取り、つながれたことは嬉しかった。
- ・ 地域・企業に限らず、普段接することのない人と接することで色々な価値観を知りたい。
- ・ 興味のある分野か。就活に役立つか。参加しやすいか(アクセス・時間)。自分の成長につながるか。

大学の友人に地域活動・ボランティア活動への参加を促すために有効な働きかけ

- ・ 行政や企業から紹介されるよりも大学の先輩から教えてもらった方が参加しやすい。
- ・ 参加のハードルを下げるためには、ボランティアの実施前に研修等を行うことが効果的だと思う。
- ・ その日限りの活動で、子どもが対象になっていれば参加しやすい。
- ・ SNSは情報量が多すぎるので、あまり見ない。大学の掲示板やインスタ等でポップにパッと分かるものがあれば詳細を調べてみようと思う。
- ・ 学部やゼミ等で広報する際、関連する分野に絞って活動の紹介をしたら効果的だと思う。
- ・ 学生支援課やキャリアセンターにチラシを貼ってはどうか(ボランティアセンターはボランティアに興味がある人しか行かない。)

地域活動に関わる地域企業の意向

京都中小企業家同友会の協力を得て、同友会会員企業に対してアンケート調査を実施中(85社が回答(10月24日時点))。

<地域活動に取り組んでいるか>

- ① 取り組んでいる(56.5%)
- ② 取り組んでいないが、今後取り組みたい(21.2%)
- ③ 取り組んでいない(17.6%)

<地域活動にはどのように関わっているか>(52社中)

- ① 人的資源の拠出(69.2%)
- ② 活動資金の提供(26.9%)
- ② 従業員の自発的ボランティア活動の支援(26.9%)

<地域活動を通じて得られた効果>(52社中)

- ① 地域の方々とつながることができた(69.2%)
- ② 企業の認知度向上、イメージアップにつながった(42.3%)
- ③ 他の企業とつながることができた(38.5%)

<実施している地域活動について>(52社中)

- ① 清掃や環境美化・保全などの活動(50%)
- ② 学区や自治会などの活動(28.8%)
- ③ 高齢者や障がい者の支援など福祉に関わる活動(23.1%)

<地域活動実施のきっかけや動機>(52社中)

- ① 地域の企業として当然のことだから(67.3%)
- ② 地域からの相談や依頼があったから(57.7%)
- ③ 企業の認知度向上やイメージアップにつながると思うから(32.7%)

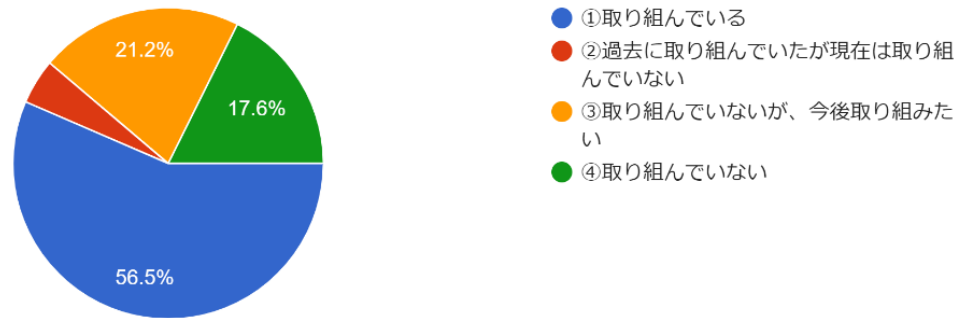
<地域活動実施にあたっての課題>(85社中)

- ① 時間的余裕がない(31.8%)
- ② 人的余裕がない(30.6%)
- ③ どんな活動を行えばよいかわからない(24.7%)
- ③ 地域活動や地域団体の情報が不足している(24.7%)

(参考)地域活動に関わる地域企業の意向

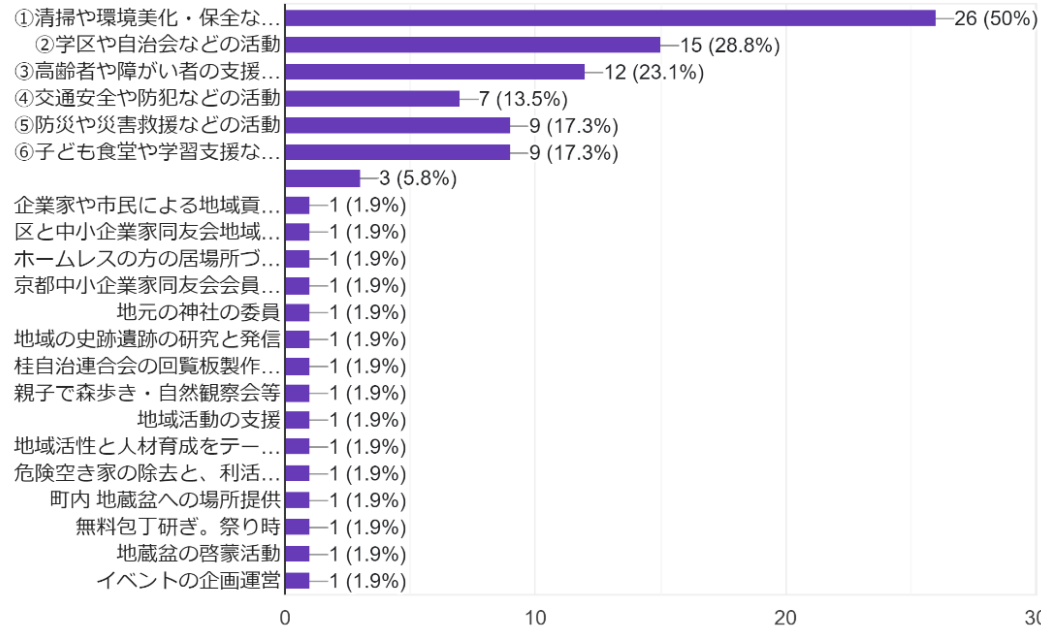
1. 貴社では、地域活動を実施されていますか。

85 件の回答



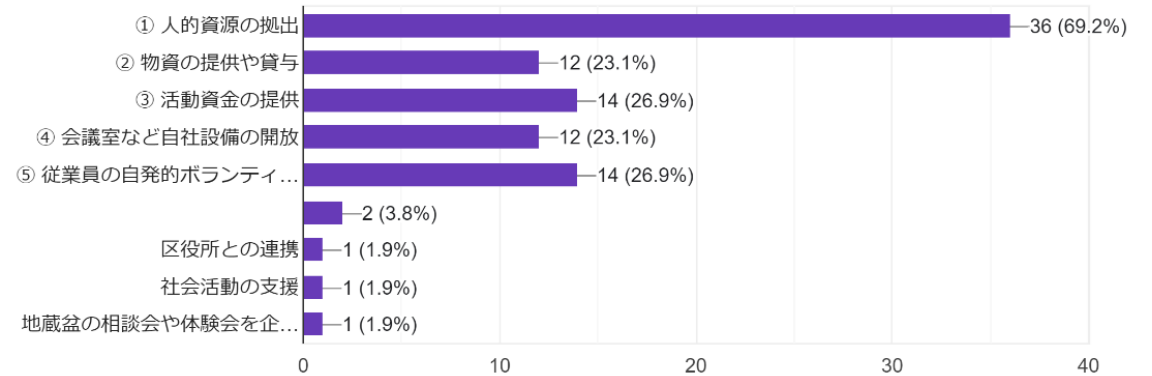
2. 貴社では、どのような地域活動を実施されています（した）か。（複数回答）

52 件の回答



3. 貴社では、地域活動にはどのように関わっています（した）か。（複数回答）

52 件の回答



4. 上記の支援内容について具体的に教えてください。

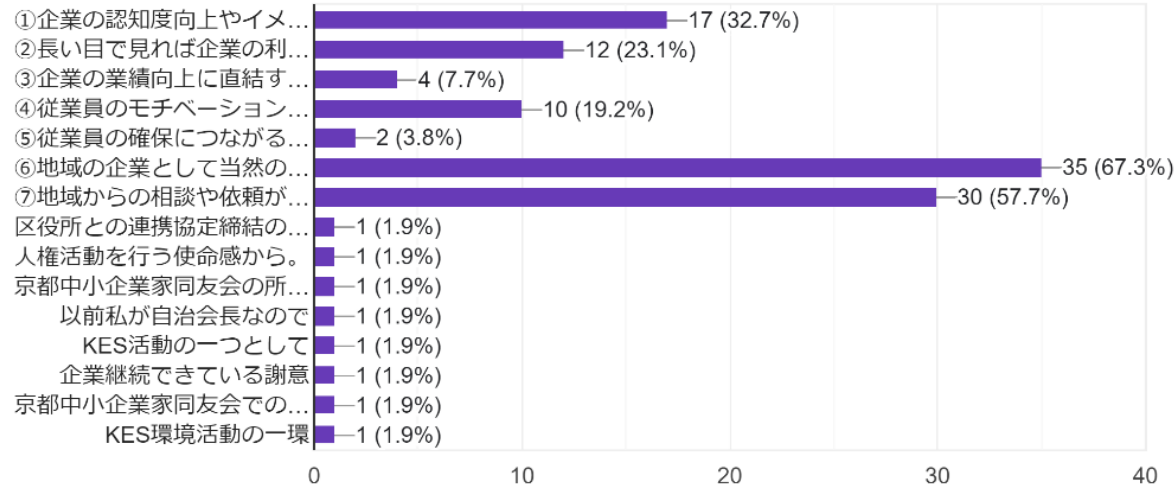
(自由記述) 4 1 件の回答

- ・ 事務所を提供し、弁護士、事務員をボランティアで拠出。
- ・ 京都市動物園を貸切にして未成年障害者を招待
- ・ 宝ヶ池公園にトイレを寄贈
- ・ 高齢者向けのスマホ教室
- ・ 商店街の祇園祭提灯設営、落書き消し
- ・ 大学生の地域活動の支援
- ・ 高校、大学への出張講義
- ・ 災害時の飲料提供
- ・ 学区運動会パンフレット広告支援及び運動会参加
- ・ 火災や住民救助の応援
- ・ 産学官が連携したイベントの開催

(参考)地域活動に関わる地域企業の意向

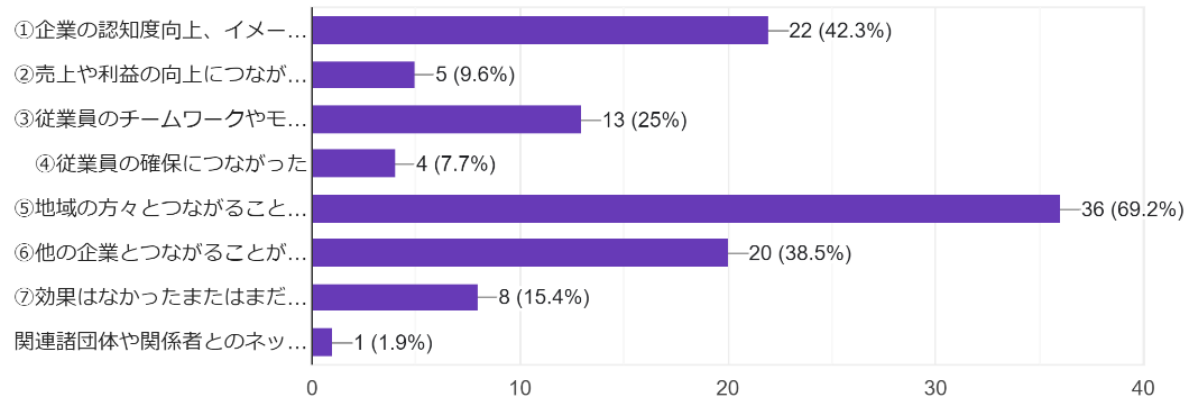
5. 貴社の活動実施のきっかけや動機はどのようなことです（でした）か。（複数回答）

52 件の回答



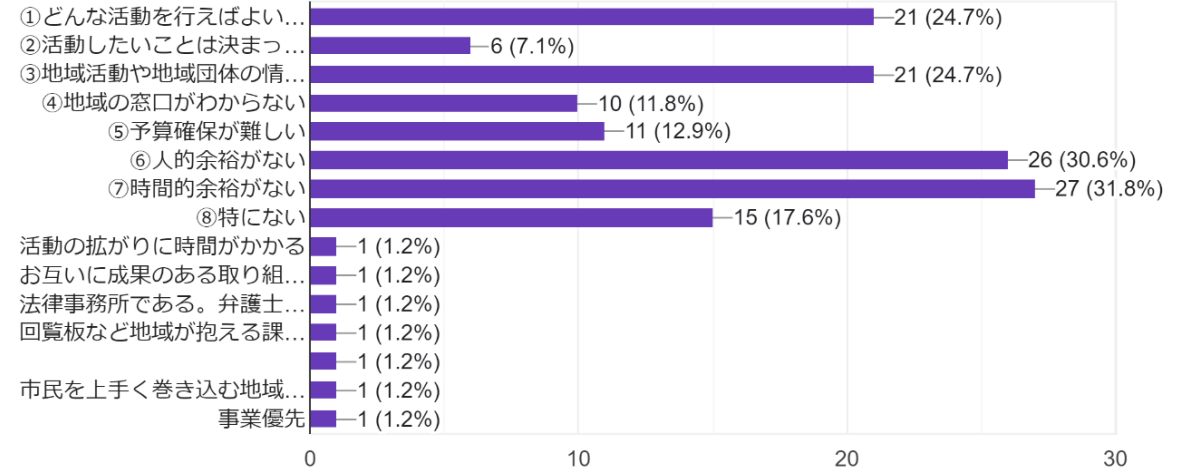
6. 地域活動を通じてどのような効果が得られましたか。（複数回答）

52 件の回答



7. 地域活動の実施に当たって課題はありますか。（複数回答）

85 件の回答



8. これまでの地域活動の実施の有無にかかわらず、今後、貴社が地域活動に活かしたい取組等があれば教えてください。

（自由記述）34 件の回答

- ・産官学金の協働体制の構築・強化
- ・障害者や児童養護施設の子供達への職業体験、実習受入
- ・小中学校の子供たちに職業のことを知ってもらう取組
- ・学校でのプログラム学習や、Webサービスの提供など
- ・金融リテラシーの向上のためのセミナー実施及び個別相談
- ・人口衰退エリアの不動産利活用
- ・行政区もしくは学区単位で地蔵盆の合同開催

地域活動に関わるNPOの意向

京都市内に拠点を置くNPOや任意団体を対象にアンケート調査を実施(212団体が回答)

<連携先の団体の属性>(161団体中)

- ① 行政機関(50.3%)
- ② NPO(45.3%)
- ③ 地縁団体(44.8%)

<連携の目的>(161団体中)

- ① 地域課題の解決(65.8%)
- ② ネットワークの拡大(49.0%)
- ③ 人的資源の共有(34.2%)

<連携の内容>(161団体中)

- ① 共同して事業やイベントを実施(78.9%)
- ② 情報交換(57.1%)
- ③ 専門性をいかした助言や伴走支援(51.6%)

<連携のきっかけ>(161団体中)

- ① 地域活動で関わりがあった又は関わりをつくった(64.0%)
- ② 交流会や勉強会など(40.4%)
- ③ 連携先からの問合せ(37.3%)

<連携によって得られた効果>(143団体中)

- ① 団体間の連携強化(65.7%)
- ② 地域課題の解決(49.0%)
- ③ 活動への住民の理解(41.3%)

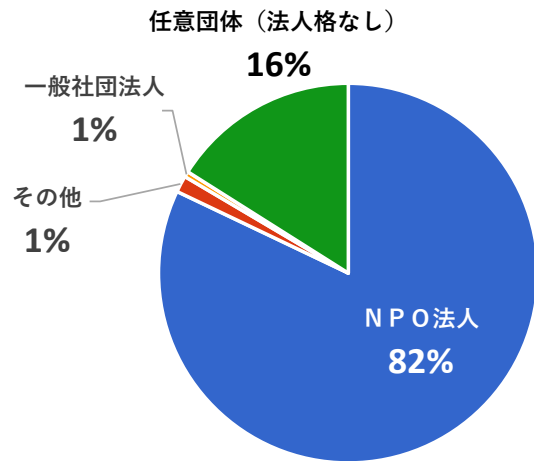
<連携における課題>(51団体中)

- ① どのようなことで連携できるかわからない(43.1%)
- ② 人的余裕がない(41.2%)
- ③ 時間的余裕がない(31.4%)

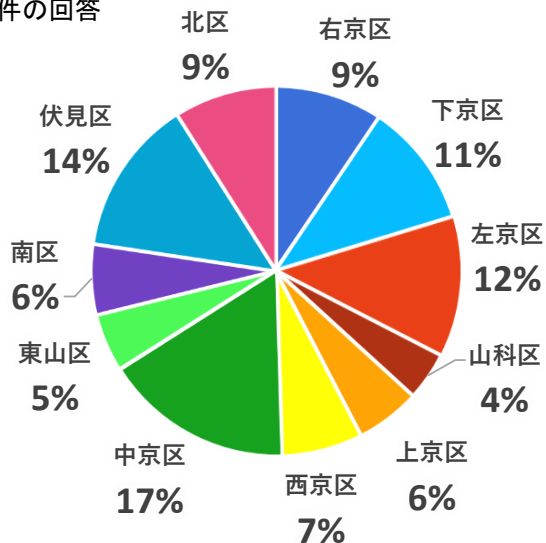
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<回答者の属性>

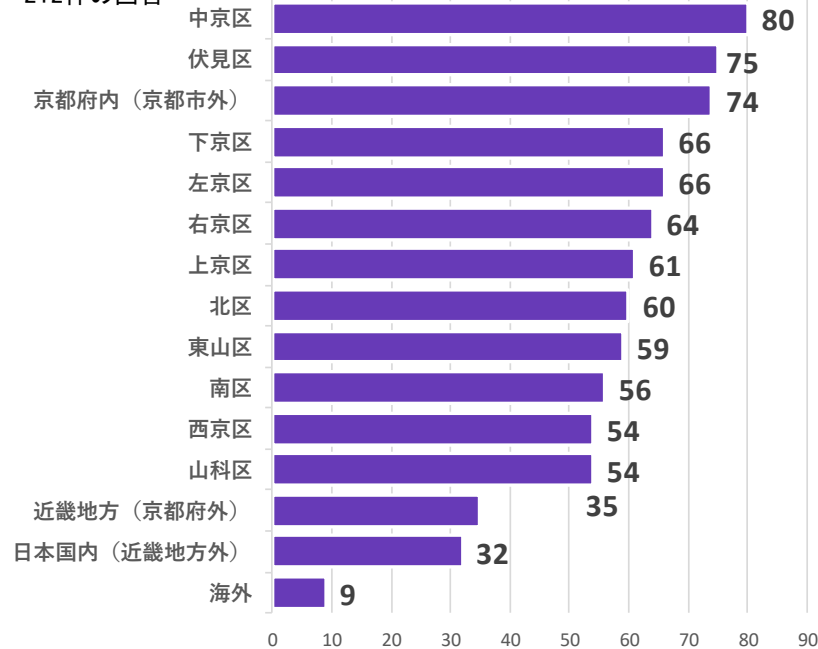
問1 貴団体の形態を教えてください
212件の回答



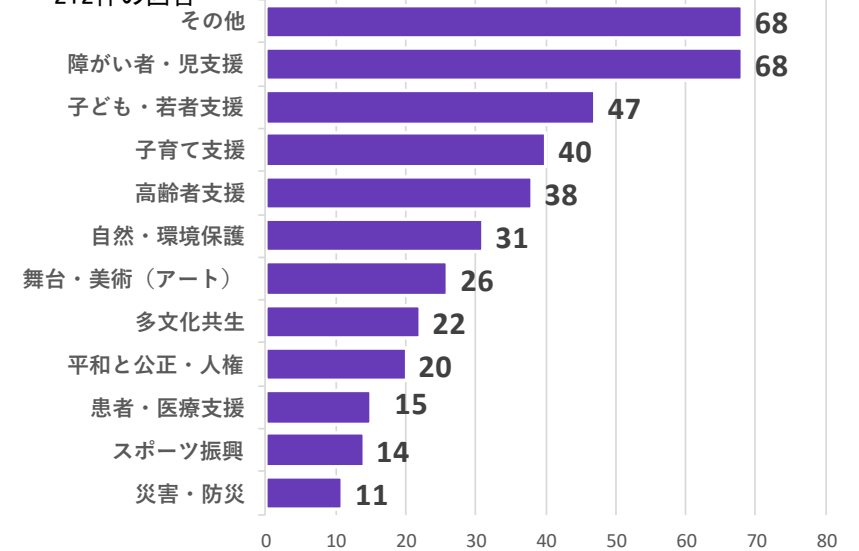
問2 貴団体の所在地を教えてください
212件の回答



問3 貴団体の主な活動エリアを教えてください (複数回答可)
212件の回答



問4 貴団体が取組む主な活動内容について教えてください。 (複数回答可)
212件の回答



その他回答

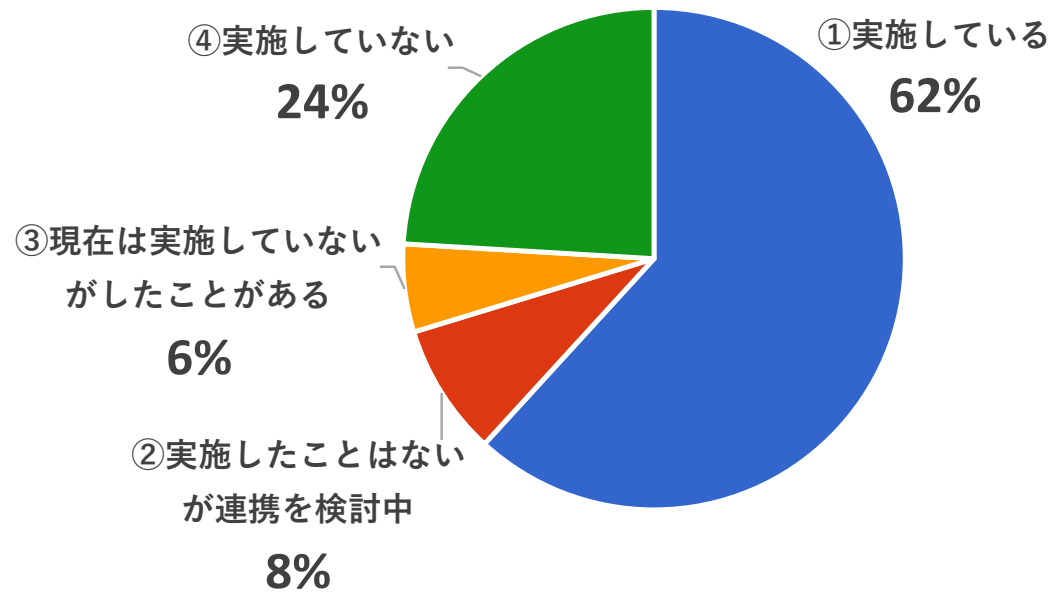
まちづくり、国際協力・国際理解、伝統文化、観光、就労支援、町屋保全
労働者支援、性被害者支援、科学技術、ICT普及 など

(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5 他の団体等と連携して事業などを実施していますか。

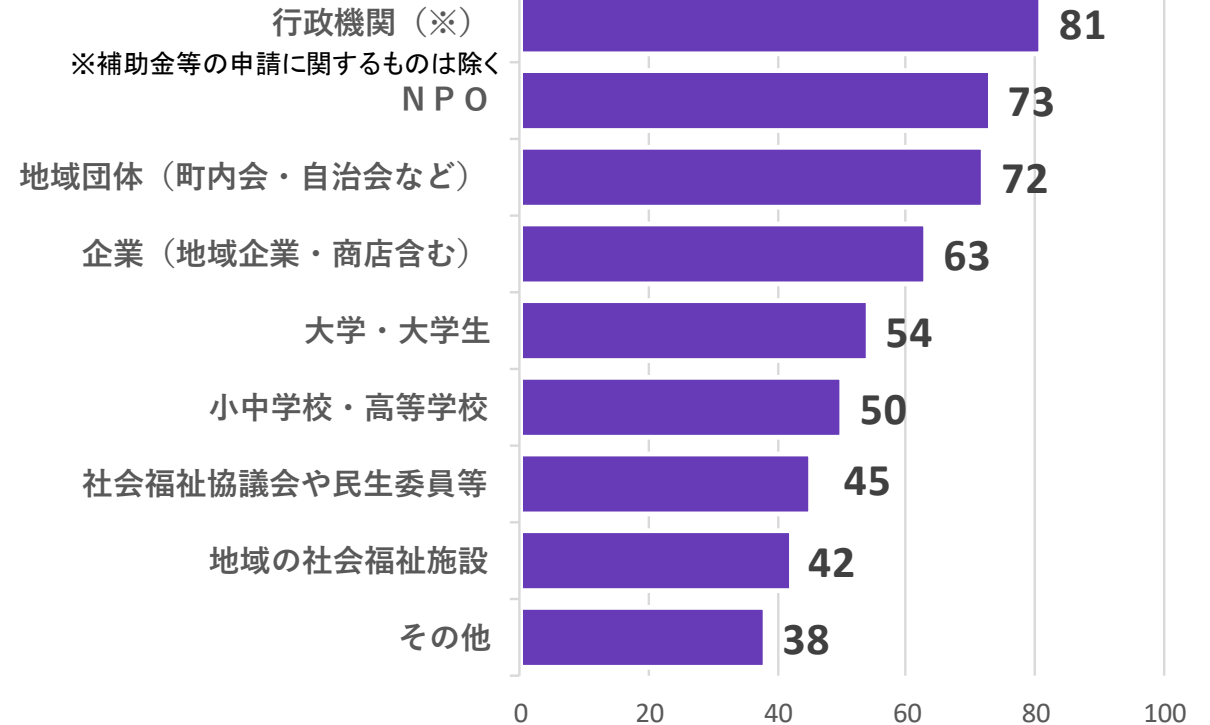
212件の回答



問6 どういった主体と連携しています（した）か。

もしくは連携を検討されていますか。（複数回答可）

161件の回答



その他回答

アーティスト、文化芸術関係施設・団体、保育園・幼稚園、スポーツ団体
医療系の団体、新聞社、公社や一社 など

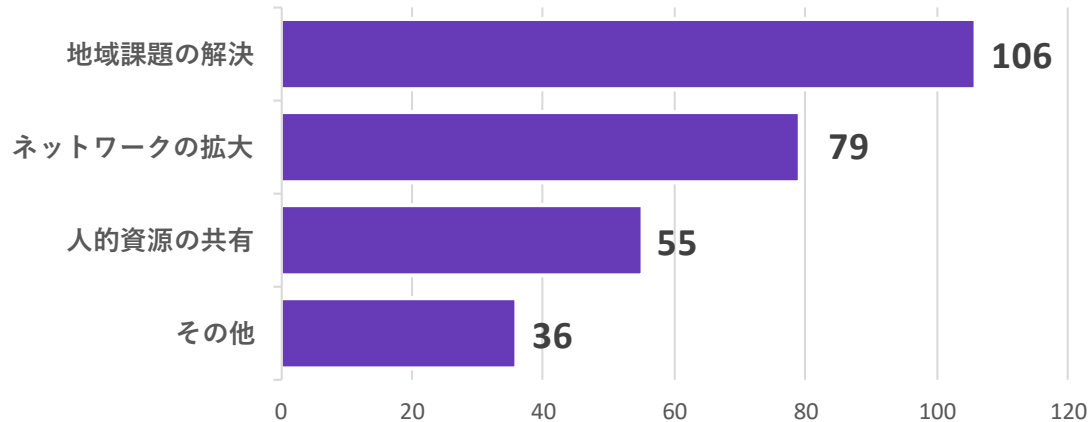
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5で「①実施している」「②連携を検討中」「③連携したことがある」と答えた方にお伺いします。(161団体)

問7 どのような目的で連携しています(した)か。
又は連携を検討していますか。(複数回答可)

161件の回答

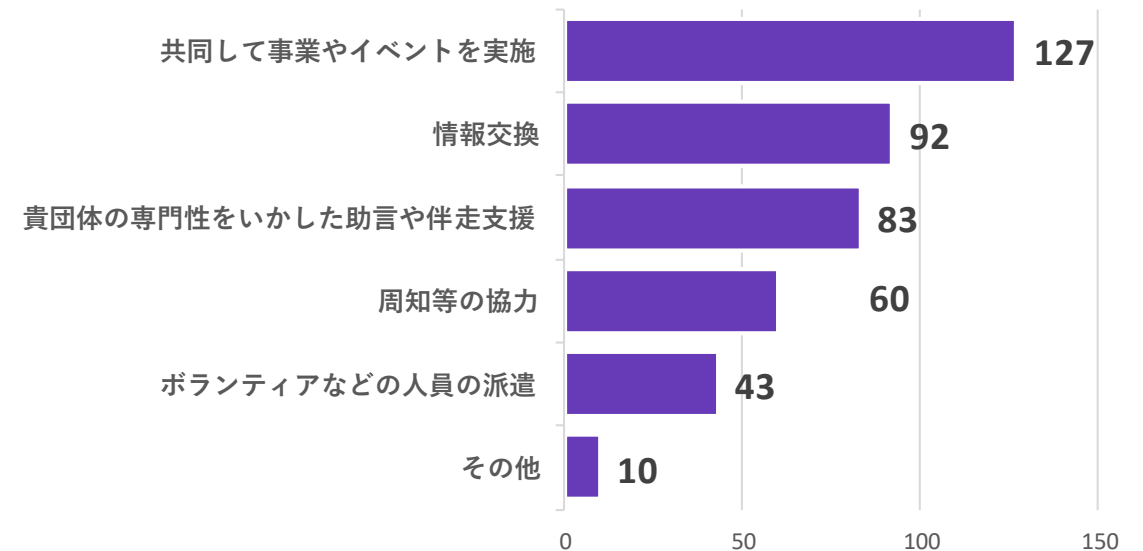


その他回答

- ・個人や団体の活動支援
- ・情報共有・情報交換、技術交流、調査研究・発表
- ・経費負担の軽減、資金調達
- ・広報・周知
- ・イベント・事業等の共催
- ・場所提供、講習依頼・出前授業、労働相談
- ・社会課題の解決
- ・大学の研修・実習など、商業振興、映画の上映会等での地域活性化
- ・コミュニティづくり、スポーツ振興、予防啓発、マスク配布活動、フードドライブ・食のセーフティーネット、シニア世代による観光分野の地域貢献活動、障害福祉課題などへの取り組み

問8 どのような内容の連携をしています(した)か、
また連携を検討されていますか。(複数回答可)

161件の回答



その他回答

- ・社会課題等を解決する方法を考えるコミュニティイベント
- ・調査研究
- ・当団体のサービスの導入
- ・関係機関との情報共有
- ・スキルアップのための音訳講習等
- ・助成金関係
- ・企業等からの協賛

など

(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問9 主にどのようなきっかけで連携を始めましたか、
また連携を検討されましたか。(複数回答可)

161件の回答

地域活動などで関わりがあった又は関わりをつくった

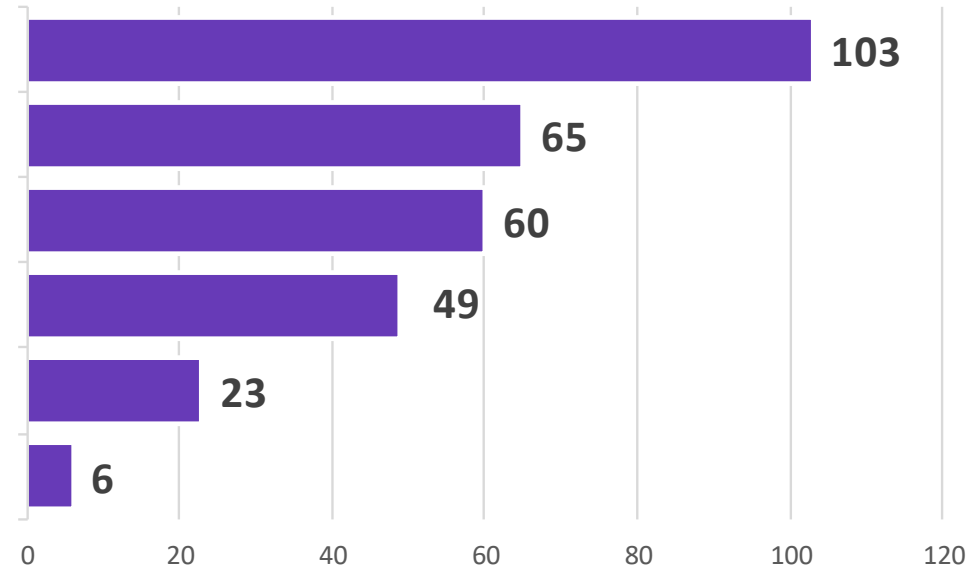
交流会や勉強会など

連携先からの問合せ

地元の方や公共施設等の職員からの紹介

その他

きっかけはわからない



その他回答

- ・こちらからの依頼・呼びかけ・提案
- ・会員からの紹介又は会員の所属団体等との連携
- ・弊会の広報活動から
- ・団体の組織の目的が地域と協働するべきだから
- ・派生団体との連携
- ・積極的にアンテナを張る
- ・法人設立時の普及活動の中で、お互いの理念が一致した

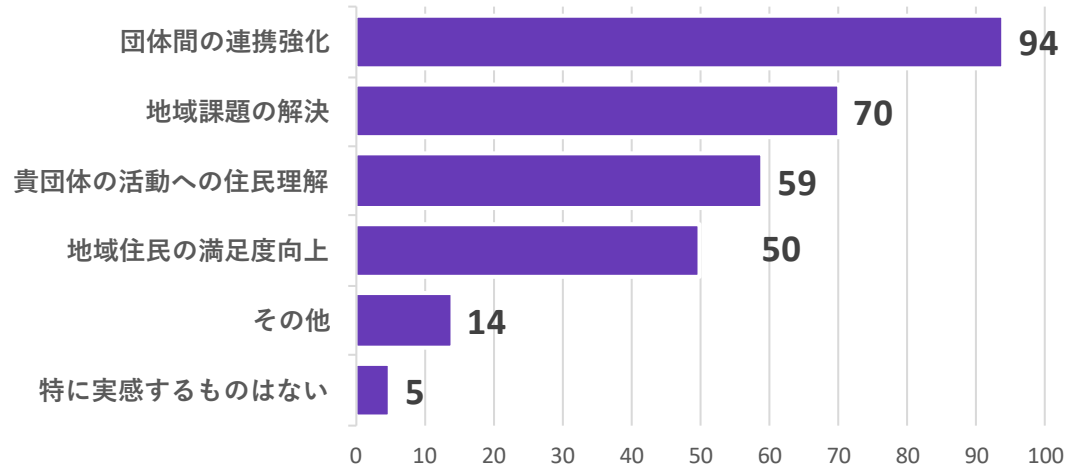
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5で「①実施している」「③連携したことがある」と答えた方にお伺いします。(143団体)

問10 連携によって得られた効果を教えてください。(複数回答可)

143件の回答

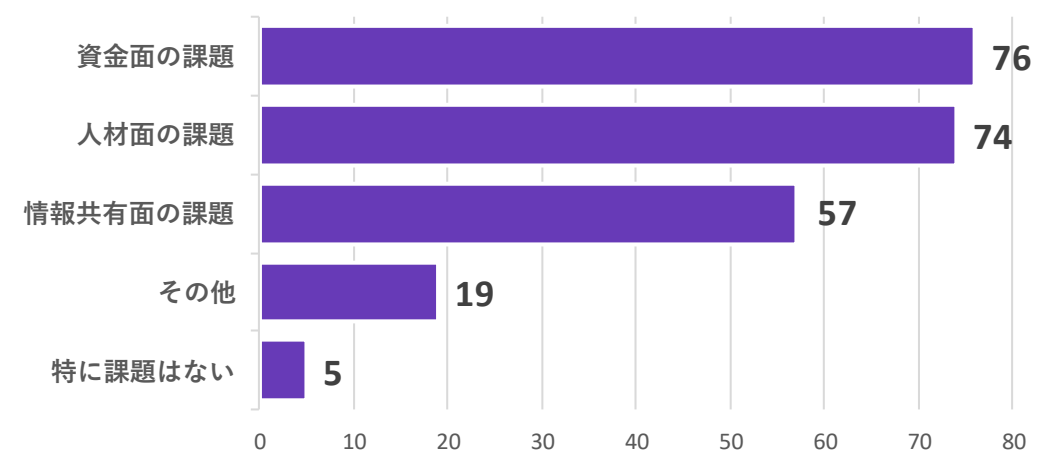


その他回答

- ・アーティストの活動がより活発になった
- ・地域課題・障害福祉課題への取り組みが前進
- ・次代を担う若者へ、病児を取り巻く環境や親子の状況を知ってもらえる機会となり、行事のボランティアへ応募してくださるようになった。
- ・法人が目指す障害者の収入増につながった
- ・子ども達の遊び相手ができた
- ・生産性が上がった
- ・顔が見える形で、地域住民・企業を知れた
- ・住民が活動団体を立ち上げた。
- ・学生が考えた新しい企画に住民が協力して共に動いている。
- ・事業の継続
- ・働く上でのトラブルの解決 など

問11 連携によって生じた課題を教えてください。(複数回答可)

143件の回答



その他回答

- ・取組みに対する温度差
- ・継続の難しさ
- ・当事者がなかなか集まらない
- ・人が交代していくことで当初の理念共有や今の社会に合わせた動きがしづらくなった
- ・障害者の自立課題
- ・NPOや法人格でない任意団体に対して情報が少ないことからの理解不足。無給や無料を求められるが、場所代は取られるなど。
- ・「やさしい日本語」の講習会を依頼されて行うものの、実社会への活用になかなかつながらない
- ・住民が情報機器を持っていないので、情報共有にかなりの時間が取られる。
- ・行政と連携する場合、調整や報告書作成などのコストが掛かる など

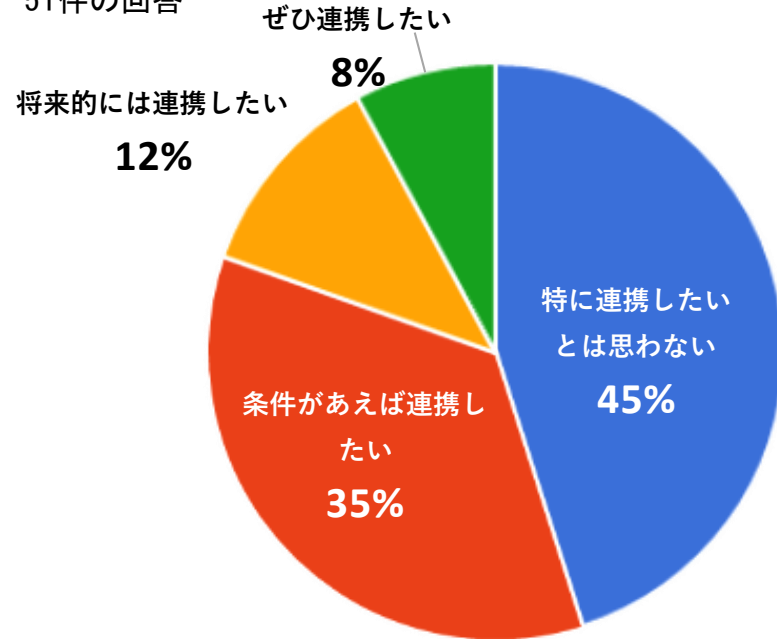
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5で「④実施していない」と答えた方にお伺いします。(51団体)

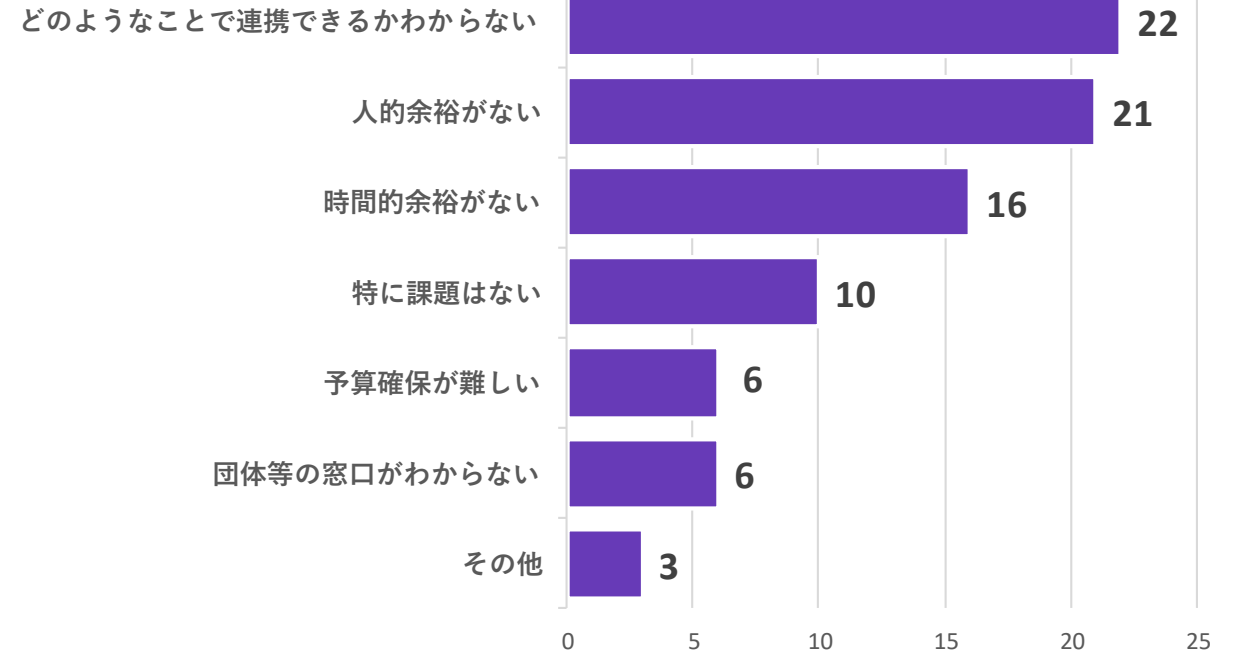
問6 他団体と連携したいと思いますか。

51件の回答



問7 他団体との連携に対する課題はありますか。(複数回答可)

51件の回答



その他回答

- ・他に似た団体がない。提携できそうな団体を探せない、確認できない。
- ・まだ活動し始めて間もないので、進める為に価値観の通じる人材を一定程度まとめる必要がある。

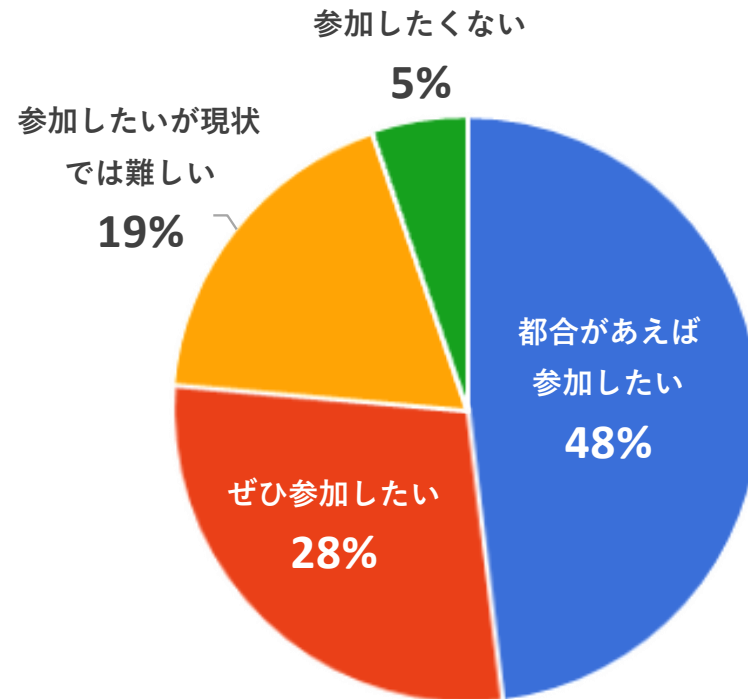
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

本市では、地縁団体や志縁団体など様々な主体が混じり合い、誰もが地域の一員として安心して快適に暮らせる、「居場所」と「出番」があるまちづくりを目指し、施策等の検討を進めています。

問12 今後、身近な公共施設等を使って、地域住民に貴団体や貴団体が取組む社会課題を知ってもらえるようなイベントや交流会等があれば参加したいですか。

212件の回答



京都市全体のまちづくりの展望

○ 次の視点を大切に、持続可能な行財政運営のもと、まちの課題を解決し、可能性を伸ばしていく。

- 市民の生きがい、幸福感が溢れるまちの追求

ウェルビーイング

- 守り、育み続けなければならない京都の本質的な価値

まち柄

- グローバルな視点に立ち、京都の求心力を活力源として、多彩な才能を有する人材を呼び込み、交ざり合いを通じて都市の魅力を高める攻めの都市経営

ぬか床

- 全ての方々が互いに支え合い、個性を発揮しながら生き生きと活躍される「居場所」と「出番」のあるまち

新しい公共

- 京都市だけでなく、府市協調、近隣自治体も含めた、より広域的、広い視野での政策展開

大京都圏

テーマ1の議論の方向性について

【テーマ1】

地域住民をはじめ、大学や地域企業など多様な主体が地域活動に参加しやすくなるきっかけや担い手を増やす仕組みづくり

<議論の方向性>

● 居心地がよい「場」の創出が必要ではないか

⇒

⇒

⇒

● 多様な主体が交わる仕掛けが必要ではないか

⇒

⇒

⇒

● 地域企業、大学等との連携強化

⇒

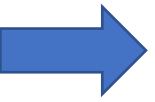
⇒

⇒

テーマ1の部会の進め方

第1回部会

それぞれの
テーマに関する
京都市の取組の
説明



出席者による
フリートーク
(発散的に)

論点整理



第2回部会

論点に関する
フリートーク
(収束的に)



まとめ

今後のスケジュール(案)

- 11月下旬～12月上旬: 第2回部会開催
(第1回部会で出た論点についてフリートーク⇒まとめ)
(いただいた意見を踏まえ、事務局にて素案の作成)
- ↓
- 令和7年春頃: 第2回審議会開催
- ↓
- 令和7年春～夏ごろ: 次期ビジョン素案に基づき議論
- ↓
- 令和7年夏ごろ: 次期ビジョン案のパブリックコメントを実施
- ↓
- 令和7年冬ごろ: パブリックコメントを踏まえた最終案を提示
- ↓
- 令和8年1月: 次期ビジョン策定